



すべての人に未来をつくる力がある

対談: 鬼丸 昌也氏、岡本 和久

NPO 法人テラ・ルネッサンス理事・創設者 鬼丸 昌也氏

1979 年、福岡県生まれ。立命館大学法学部卒。高校在学中にスリランカのアリヤトネ博士（サルボダヤ運動創始者）と出会い、「すべての人に未来をつくる力がある」と教えられる。2001 年、カンボジアを訪れ、地雷被害の現状を知り、「すべての活動はまず『伝える』ことから」と講演活動始める。同年 10 月、大学在学中に「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」をめざす「テラ・ルネッサンス」を設立。2002 年、(社)日本青年会議所人間力大賞受賞。地雷、子ども兵や平和問題を伝える講演活動は、学校、企業、行政などで年に 100 回以上。遠い国の話を身近に感じさせ、すべての人に未来をつくる力があるという訴えかける講演に共感が広がっている。著書に『ぼくは 13 歳、職業、兵士』（小川真吾氏と共著、合同出版）、『こうしてぼくは世界を変えるために一歩を踏み出した』（こう書房）、『僕が学んだゼロから始める世界の変え方』（扶桑社）など。

テラ・ルネッサンス公式ホームページ: www.terra-r.jp

< 生い立ち、そして、テラ・ルネッサンスの活動 >

岡本 | まず、インベストラ이프の読者の方々にテラ・ルネッサンスの活動についてお話いただけますか？

鬼丸 | はい、活動紹介をさせていただきますと、五つの大きな活動があります。一つが地雷、これはカンボジアやラオスの地雷や不発弾のために日本で資金を集めたり、地雷で被害を受けた人たちの生活を立て直したりするために支援活動をしている。二つ目が小型武器です。一人から三人で扱うような小型武器が世界中に出回っていてそれが戦争を激しくしている。武器の取引を規制する国際条約、武器貿易条約を作ろうという動きを世界の NGO などが中心に行ってきました。そして、武器貿易条約が二年前に国連で採択され、いま、施行されています。罰則規定はないのですが国際間の条約です。世界で初めて小型武器を含めた通常兵器の取引を規制する条約です。三つ目がそのような小型武



長期投資仲間通信「インベストラيف」

器を持って戦っている子ども兵の問題に取り組んでいます。これはアフリカの三つの国で子ども時代に兵士だった経験を持つ人々を社会に帰すための職業訓練とか、識字教育、あとマイクロクレジットでお金を貸して起業家教育をして社会復帰プログラムというのをアフリカの三つの国でやっています。四つ目が2011年3月11日以降、被災地である岩手県大槌町で被災された高齢女性を対象にした生活再建で、物を作っていたいて買取りをして支援するプロジェクトをしています。そして、五つ目が問題に取り組み現場で支援すると同時に、そのような問題が起こらないような社会を創るために人々の意識や心や生活習慣を変えるために年間120回ぐらいの講演を行っているのです。今日も夕方に茨城で講演があります。これらが大きな活動の柱です。

岡本 | 鬼丸さんは1979年、福岡県の生まれですね。少し生い立ちを話してください。

鬼丸 | はい、福岡の北九州市の生まれです。父は大工でした。しかし、独立に失敗して、多額の借金を抱えて、なおかつ、借金と同時に子どもも増えまして(笑)、それで人口100万人の北九州市という大都市から、人口1000人の辺鄙な田舎にある父の実家に引っ越したのです。小学校もスクールバスで10分ですし、中学校もバスで40分、高校は1時間半かけて通学していました。



そこで小さい貧しい村だったので外のことに関心が向いていったのです。海外のこととか、政治や経済に関心を持つようになりました。図書館の本などを読んで勉強をしていたのですが、高校3年の時にスリランカに行く機会がありました。たまたまある団体のスタディ・ツアーに参加できたのです。そこでサルボダヤ運動という仏教の考え方に基づいた農村開発運動をしている団体の指導者、アリヤラトネ博士に言われたのが「もし、君が何かをしたいと思ったら、何かを変えたいと思ったら、特別の知識も財産もいらない。ただ、次の言葉だけは覚えておいて欲しい。それは、『すべての人に未来をつくる力がある』ということだ。どんなに人に裏切られても、どんなに失敗しても、君にも未来をつくる力があるのだから、変化を起こす力があるのだから、みんなに変化を起こす力があることを信じていたらどんなことでも変えられる」という言葉でした。その言葉が心の底にあったからこそ、大学に進学し、大学4年生の時にカンボジアの地雷源に行き、自分に何ができるのだろうと考えたのです。自分にできることを探そうと思ったのです。簡単にはカンボジアで地雷の除去もできないし、お金もないし、英語もできない。できないことだらけな



長期投資仲間通信「インベストラيف」

のですが、博士の言葉を思い出して、相手が日本人であればこの地雷の問題を伝えることができるなと気づいたのです。カンボジアに一週間いて、日本に帰り友だち 10 人を集めて報告会をするところから始まったのです。2001 年でした。その年、口コミだけで 90 回、色々な場所で話をさせていただいて、だんだん支援者も増えて行ったのです。それがテラ・ルネッサンスの設立につながったのです。

<ビジョンの力>

岡本 | 仲間はどのようにして集まってきたのですか？

鬼丸 | ずっと一人でやっていたのですが講演を聞いた友人たちがボランティアとして協力してくれるようになりました。そのうちインターンを受け入れたのですね。大学生のインターンが卒業してそのまま採用するケースもできました。ただ、一番、テラ・ルネッサンスが飛躍をしたのは 2005 年でした。ウガンダで直接、元子ども兵士の社会復帰を助けようという活動を始めた時です。やると決めたので、人が必要だ、お金が必要だ、そう腹をくくったら人もお金もついてきた。その結果、2004 年まで 1000 万円だった収入が 5000 万円に跳ね上がったのです。志をたてると共感してくれる人が増え、資金も人手も集まるということを実感しました。

岡本 | そうですね、揺るがない志、ビジョンが確固たるものとしてあれば、自然に行動になり、結果がついてくる。先日、ノーベル賞を受賞された山中伸弥先生の講演を聞きました。先生がアメリカの研究所で働いていたとき、所長が「研究者として成功するには VW が必要だ」と言ったそうです。VW といってもフォルクスワーゲンではない(笑)。ビジョンの V と(ハード・)ワークの W だということです。鬼丸さんはそれを自然に実践したのですね。

鬼丸 | 今年からアフリカのブルンジという世界で二番目に貧しい小国で、元子ども兵士や紛争で傷ついた女性たちの社会復帰支援を日本の NGO として唯一始めたんです。現地の NGO とパートナー関係を結んでいるのですが、その団体の代表でエリックというブルンジ人がいるのです。彼自身、子ども兵でした。3 年間武器を持って戦っていたのですが、彼はすごく頭がシャープで、ハートもあたたかい。彼の言葉がすごく印象に残っているのです。「ノーマネー・ノーライフではない。ノービジョン・ノーライフなのだ」という言葉でした、我々、NGO にとって、企業でも同じだと思いますが、一番大事なものはビジョンです。ビジョンがお金を動かし、人を動かすのです。エリックから繰り返しそれを聞きました。自分の 14 年間を振り返ってみてもビジョンが人を動かしていることを実感します。

岡本 | あらゆる組織に共通ですね。組織全体のビジョンが個人のビジョン、生き様のレベルにま



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

で浸透していて全体として整合性が取れている場合はまず成功するでしょう。それが一人一人の行動になり、組織全体の活動になる。それがなければ単なる漠然とした夢ではない。目標に向かっての行動が絶対に必要でしょう。鬼丸さんの著書でも紹介されていますが、子ども兵の言葉に絶するような悲惨な状態がある。しかし、単に「かわいそうに」と思うだけでは何も変わらない。「これをなんとかしなければいけない」という思いに進めていくためには何がきっかけというか触媒になるのでしょうか。単なるシンパシーではない。英語だとエンパシー（感情移入）のレベルにならないと。

<子ども兵が生まれる原因>

鬼丸 | 私が初めてウガンダ北部に行ったのは 2004 年でその時に 8 人の元子ども兵士に出会いました。例えば武装勢力に誘拐され訓練を受けて、生まれ故郷の村を襲撃させる。そして、母親の腕を切れと命じられる。従わなければ殺される。本当に残虐な行為が行われている。そのような話が自分に飛び込んできたとき心が真っ白になってしまう。自分の



理解を超えているのです。目の前の 15 歳、16 歳の子どもたちが本当にかわいそうだと思うし、大変なことだと思うのです。ただ、そのときに僕の心に起こってきたのは「何とかしなければいけない」という思いでした。なぜ、そう思ったかというと、元々、テラ・ルネッサンスの活動のなかで、地雷の問題も子ども兵の問題もそうなのですが、豊かな先進国に住んでいる我々にもその原因があるということなのです。途上国で起こっている紛争のほとんどはレアメタルやエネルギーなどを巡る問題です。それを誰が使っているのかといえば日本人を含めた先進国の人々です。そのような問題を起こしている、紛争を起こしている企業に投資や融資を行っているのも私たち先進国の人間です。子ども兵士のものすごく悲しい体験談を聞いていたときに湧き起ってきた感情は、「かわいそうだ、つらい、受け入れがたい、信じられない」という感情と同時に「これを変えることはできる」ということでした。私たちの生活のありかたや経済の仕組みや営みを変えれば、この目の前の子どもたちの苦しみを和らげることができる、もう、二度と起こさないですむようにできるということでした。その思いはこの活動を始めた 14 年前からずっと続いているのです。地雷、武器の取引、子ども兵士、みんなそうです。それぞれの課題に取り組むと同時にその根本にある私たちの生活にある原因を見つけていけば、どんなに現場で苦しいことや悲しいことがあっても、これを変えればいいということが理解できていけば行



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

動につながる。悲しみだけに支配されるのではなく、解決の道筋がわかる。それを、講演活動を通じて現状とその原因を理解していただく。子ども兵の話だけだと「もう、そんな悲しい話は聞きたくない」というところで終わってしまう。でも、そこに自分たちの生活との関係を伝えると自分でもできることを探せる。そのような仲間を増やしていくことで支援もできる、経済の仕組みも変えることができるようになるのではないかと考えているのです。

岡本 | 例えばレアメタルが必要なことは事実だし、レアメタルを得ることが悪いわけではない。

鬼丸 | おっしゃる通りです。

岡本 | しかし、その需要を人の犠牲において自分の利益にしようという輩がでてくるところに問題の根源があるということですね。

鬼丸 | 二つあると思います。一つは欧米系のレアメタルを使うメーカーが、例えばコンゴの武装勢力と裏取引をして安く輸入をして部品を納入するというケース。そのような事実もあります。また、それが知らない間に自分のところを経由してブラックボックスに入ってしまう。つまり、メーカーはそのような事実を知らないうちに輸入してしまう。僕らの生活を成り立たせるためにレアメタルもエネルギーも資源も必要です。ただ、需要側がそのことに関心を持つことが大切です。需要家は選ぶことができる。アメリカではドットフランク法が成立しました。コンゴで採掘されるレアメタルを使っているかどうか報告をしなければいけない。そのための調査のコストをかけるぐらいなら他から輸入した方が良いということもあります。先日、講演をしたときに日本でも有数のコンデンサーメーカーの社長がお見えになっていました。「衝撃だった」とおっしゃるのです。「自社の輸入先をしっかりと見直さないと、もしかしたら自分たちも悲劇に加担しているかも知れない」と言っておられました。企業が自分たちの行動を見直す姿勢、そして、我々現場を見ている人間が声を出すことが重要だと思いました。

＜なぜ、人を傷つける人々がでてくるのか＞

岡本 | 被害者である子どもたちが社会復帰できるように支援するのも大切ですが、それは根本的な問題ではない。本当の問題は子どもを誘拐して兵士としてトレーニングをして悲劇を起こさせる人々がいるということです。先日の後藤さんの悲しいできごともありましたが、また、なぜ ISIL がそのような行動に駆り立てられているのかという視点も必要なのではないかと思います。決して彼らの行動を正当化するつもりはないのですが、なぜ、彼らはあのような行動をとるのか・・・、その点はどう思いますか？



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

鬼丸 | やはり、そのような行動を抑制するような経済や社会のあり方に切り込む必要があります。長い時間がかかると思います。しかし、それを進めていかなければいけない。それを企業や行政、市民団体、個人、それぞれのレベルでやっていかなければならない。私たちはコンゴ民主共和国で元子ども兵の支援をさせていただいています。さまざまな要因で子ども兵が村に帰ってきます。でも、また、武装勢力に戻ってしまうケースがあるのです。結局、村で受け入れてもらえない。差別をされる。「あいつは人殺しだ」と指をさされる。我々はいま、900人単位の子どもの兵をコンゴで支援していますが、職業訓練をして復帰させた子どもたちは誰一人、元の武装勢力には戻らない。新しい組織から勧誘されてもそこには近寄らない。復帰するためには雇用の場が必要だし、そこで仕事ができるための職業訓練が必要です。本来、徴兵そのものを防ぐために子どもの権利条約で15歳未満の子どもは使ってはいけないことになっている。そのようなルールが守られるように国際社会に働きかけることもこれから僕らがやっていかなければならないことです。そのためには実績と資金が必要です。だから、もっと、もっと成長したいと思っています。

<人間のピュアな本質を引き出すのが教育>

岡本 | 私は人間の一番奥底にある心は純粋なきれいなものだと思いますが、色々な要素、生まれてからの体験だけでなく、民族としての体験や時代や環境の影響によって考え方、物の見方にサングラスがかかってしまっている。さらに言えば、これは賛成する人も反対する人もいるでしょうけれど、前世からの体験もあるのだろうとさえ思います。でも一番奥底の人間性はやっぱりピュアなものだと思うのです。

鬼丸 | 元子ども兵士たちと向き合ってきて思うのは、人間は本質的に善であると思います。でも善のフィルターと悪のフィルターがあってそのどちらを通すかによって現れてくる行動が瞬間的に変わってくる。結局、いい環境やいい雰囲気を作ってゆくことで行動も変わってくる。まさに、教育が大事なのだと思います。あと、触れ合い方ですね。私たちがいい触れ合い方をすることが支援なのです。良い触れ合い方をすることで心の奥底にある魂を引き出す、純粋なものを引き出すことをできるだけ多くの人とやってゆきたいのです。

岡本 | 本当ですね。触れ合い方というのは結局、教育ですからね。教育は学校でやってくれるものではなくて、あらゆる人生の場面での触れ合いというのが教育だし、学びの機会です。私が5歳の子どもにマネー教育をしていつも思うのは彼らからたくさんのことを学べるということです。今日、こうして鬼丸さんと出会って話をしている、この触れ合いも私にとっては教育を受けていることになる。その意味で、毎日、パソコンに向かっている時間を少しだけ減らして人間対人間の触れ合いを増やすといいと思いますね。それが教育です。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

鬼丸 | 僕もそう思います。それはアフリカでもアジアでも日本でもみんな同じ状態です。やはり身近にカッコいい大人のモデルを見せてあげたいと思います。テレビを見ると人を傷つけたり、悪いことをしたりした人がたくさんでできます。そんな大人だけじゃないよというのを気づかせてあげたい。

岡本 | それは年長の世代が年少の世代に対する責任だと思いますね。

鬼丸 | 両親が一生懸命に働いている。夢を持っている。そういう人たちがこの社会にはたくさんいるよということを教えたい。それを見せてあげることもひとつの教育だと思います。

<大きかった父の影響>

岡本 | 鬼丸さんの本を読んで思ったのですが、お父上の影響がすごく大きかったのではないですか？

鬼丸 | そうなんです。父は中卒で大工になったのです。父が少年の時に私の祖父は亡くなっています。ですから若い時から苦労をした。私は5人兄弟なのですが、苦労して子どもを育ててくれた。父は10年前、52歳で農作業中に事故死をしました。そこから僕のスイッチがもうひとつ入ったような気がします。僕のような活動をしていると人の死にはよく直面します。しかし、父が亡くなった時にひとつの命が亡くなるということがいかに大きな悲しみや苦しみや様々な感情が湧き起ってくるのだと知った。その時に初めて本当に命に向き合うことができたと思った。それこそ父が死をもって教えてくれたことだったと思います。だから、ひとつ、一つの命、今回の後藤さん、湯川さんのことでもいろいろな事情があったと思いますが命が亡くなる、それがどれだけ悲しく、苦しいものか、本来あってはならないことだと実感できるようになった。本来、命を輝かせることは、理不尽さから命を奪われないことだということを学んだと思います。もうひとつあるのはさっきのビジョンの話に関係します。父は大工でした。だから、寡黙でもくもくと働き続けるのですが、仕事が終わると家ができています。大工には完成した家というビジョンがあるんですね。そこに、向かって部下を使いながらひたすら作り上げていく。それを小さい時から見てきました。何か大きなビジョンを持ってそこに向かって黙々と仕事を進めていくということを父から学んだ気がします。

岡本 | 私のすぐ下の弟はロサンゼルスで設計事務所をしています。ハリウッドの住宅の設計などもしているようで、「あの家は自分が設計した」などという話を聞くとうらやましいなと思いますね。とにかく金融の方はあんまり目に見える物ができませんから(笑)。何とか、みんながゆたかでしあわせな人生を送ってほしいというのが目的です。これはあくまで人さまの心のなかに建築をしているような感じです(笑)。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

鬼丸 | なるほど、そうですね。

<文化のバロメーターは命の価値>

岡本 | ある意味、命の尊さを国民全体がどのぐらい共有しているかというのが文化程度だとも言えると思うんです。命の大切さがどれぐらい人々の間で共有されているかというのが文化のバロメーターだと思います。若い頃、ブラジルにいましたが、ある時、高速道路を車で走っていたら車の事故で亡くなった方が路肩にむしろをかけられて横たわっていた。いまから40年ぐらい前のことでしたが、その当時でもまず、日本ではそのようなことはなかったと思います。「ああ、この国では命の価値が低く見られているのかな」とショックを受けました。東日本大震災からもう四年になりますが、まだ行方不明者を探している日本という国は本当に文化程度の高い国なのではないかと思います。いかに文化程度を向上していくかというのは、問題を起こす側にどう働きかけるかということでもあります。

鬼丸 | 私もそう思います。全方向でやっていかなければならない。命の大切さ、命の生かし方を気づかせる努力をしていきたいと思います。

<正義よりしあわせ感を基準に>

岡本 | 「正義」と一口に言ってもひとり一人にとって正義は異なる。そこが非常に難しい問題ですね。

鬼丸 | 正義って人の感情を増幅させる触媒のようなものだと思います。いろいろなメンターの方に教えていただくのですが、正義を基準にするのではなく、しあわせ感を基準にするのが必要ではないかと思っています。正義には民族や国家、個人それぞれの事情の影響を受ける。人間にとってのしあわせって何かを考えるとその方がすべての人に共通のものがあるのかも知れない。それを基準に物事を考え行動する。そのような考え方を世界中の人と共有したい。

岡本 | なるほど。それは私がいつも言っている「お金持ちよりしあわせ持ちに」というのと同じですね。あくまで私の印象ですが、正義至上主義とお金こそ価値であるという強欲資本主義との間には何か共通のものがあるような気がしますね。

鬼丸 | マネー資本主義、国家資本主義から公益資本主義というような、公共の益を追求するような資本主義を目指すべきではないかと思っています。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

岡本 | 私はもう少しアジア的な資本主義の考え方を日本は自信を持って世界に表明していった方がいいのではないかと思います。和の精神、おかげさま、もったいない、知足等々、いまの世界に足りない部分を日本はたくさん持っているし、それをうまく資本主義と合体していけば、世界にとっても、とても良いことになるのではないかと思います。

鬼丸 | 本当にそうですね。

<シンボルの世界とリアルの世界>

岡本 | 子どもたちは ATM からお金が出てくるのは保護者が働いていて世の中のためになることをして、その対価として給料が振り込まれているからだという事実をよく理解していない。でも、パソコンに向かって株式を短期売買や投機をしている人



はどれぐらい株式の発行企業が世の中のために何をしているか、そこで働いている人たちがどんな思いで働き、どんな生活をしているかまで気持ちがいたっていない。みんな、お金というシンボルの世界にどっぷりつかってしまい、リアルの世界に思いを馳せていない。無残なテロにしても理念の世界に埋没していて、自分なりの正義感に陶醉して行動をするが、それが現実の世界でどれだけの悲しみや苦しみを引き起こしているかを認識していない。それは先ほどの武装集団の子ども兵の話とも同じことです。

鬼丸 | いま、マザー・テレサの言葉を思い出しました。「愛の反対は無関心である」と。

岡本 | 鬼丸さんのこれからの活動の夢は？

鬼丸 | はい。夢というより、まず、やらなければいけないことなのですが、円安の影響により円で集めた資金が外貨では目減りしてしまっています。同じ支援をしようと思うと一昨年よりも 1.5 倍ぐらいの資金を集めなければならない。それから去年、コンゴの状況を見に行った時にその厳しさを痛感しました。我々の支援している地域には我々以外の NGO は



長期投資仲間通信「インベストラيف」

いないのです。我々がセイフティネットとなるのであれば支援を拡大しなければならぬ。そのためにも寄付を募るチャレンジをしていきます。もうひとつは、笑われるような夢かもしれませんが、我々14年間のテラ・ルネッサンスの活動の基本は支援の受け手が当事者であるということです。一人一人、抱えている問題は違います。ですから、一人一人に寄り添う支援、伴走者としての支援をグローバル・スタンダードにしたいということです。私が望むのは自分たちのことを自分たちで決める社会になって欲しいということ、自分たちがムードメイキングをしてほしいということです。そのためにも多くの人たちに共感してもらいたい。4月に台湾で講演をします。何とか、今年中にアメリカでもやりたいと思っています。英語はしゃべれないですけど・・・(笑)。いま、オンライン英会話教室で勉強しています。海外での資金調達を海外での支援活動に向けていきたい。海外で資金調達をしている日本のNGOはほとんどないと思います。究極の夢はテラ・ルネッサンスの理事長がアフリカ人になっていいと思っています。考え方さえ共有できればいいのです。そのような組織を創っていきたくて夢を描いています。途方もない夢ですけど。

岡本 | 鬼丸さんのような若い人が出現してきているということは本当にうれしいです。今日はとても楽しいひと時でした。ありがとうございます。